

平成29年度 行政視察報告書

平成29年11月13日（金）

チャレンジ岡崎・無所属の会 杉山 智騎

1. 視察日程

平成29年10月3日（火）～10月4日（水）

2. 視察先及び視察内容

- (1) 岐阜県郡上市
自殺対策の取り組みについて
- (2) 岐阜県高山市
観光客誘致・インバウンド対策等について

3. 視察内容

■自殺対策の取り組みについて

10月3日（火） 10:00～

i) 岐阜県郡上市

人口 4.2万人、面積 1,030.75k㎡

郡上市は八幡町・大和町・白鳥町・高鷲村・美並村・明宝村・和良村の7町村が合併して04年3月に誕生。岐阜県のほぼ中央に位置し福井県に接している。市域には高原が広がり、また24本もの一級河川が流れ、雄大な自然に恵まれている。岐阜、高山、福井、金沢などに通



ずる交通の要衝となっている。400年以上の歴史を持つ「郡上おどり」で有名な地。「清流長良川の鮎」が世界農業遺産に認定されている。

ii) 自殺対策の取り組みについて

●郡上市の現状

- ・郡上市の出生 年間 約280人
- ・郡上市の死亡 年間 約650人

自殺死亡率（H21-27年平均）

郡上市 26.28（人口10万対）

参考：岐阜県 21.7 全国 22.2

●平成21年度の岐阜県自殺総合対策行動計画の策定をきっかけとし、郡上市としては社会福祉課を設立。生保受給者の相談、職員健康管理とともに、障害担当とし、認定調査、相談・家庭訪問、療養を担当している。

●今までの流れ

〈H21〉岐阜県自殺総合対策行動計画

自殺の現状 集計と分析



〈H22〉健康福祉推進計画実態調査



〈H23〉郡上市いのち支え合い（自殺対策）行動計画作成



〈H24～〉計画の実施



〈H26〉健康福祉推進計画実態調査（2回目）



〈H27〉中間評価

後期郡上市いのち支え合い（自殺対策）行動計画作成

●郡上市の自殺者の状況

女性に比べ、男性の自殺者数は約3倍（H11～21）。

平成元年～平成10年と平成11年～20年の10年間の自殺者数は後者のほうが増加。

男性の40、50、60歳代、女性の70歳代の自殺者比率が高い。

動機別自殺者の割合は健康問題、生活経済問題、家庭問題と続く。

●郡上市いのち支え合い（自殺対策）行動計画（H23年度）

〈4つの基本計画事業〉

- ① 心の健康づくりや自殺予防の普及啓発
- ② 人材育成と相談窓口の充実、健診を利用したハイリスク者の早期発見と早期治療
- ③ 自死遺族支援
- ④ 関係機関の連携強化

● うつ病の早期発見と早期治療

- ・ 特定健診での問診と保健指導
- ・ 不登校や中途退学者等の相談
- ・ 閉じこもりがち高齢者の声かけ
- ・ 商工会の相談との連携
- ・ 各種相談でのうつ傾向の把握
- ・ 自殺未遂者の相談
- ・ 介護者の相談と支援
- ・ 青色申告場での相談窓口の掲示



iii) 所感

岐阜県自殺総合対策行動計画の策定をきっかけに郡上市として本格的に自殺予防対策への取り組みを開始した。最初に現状を把握するために実績数の集計、分析を行い、それと同時に心の健康意識調査を行ったり、市民講座アンケートなどを行った。勝手な思い込みで動いているのではなく、郡上市の実情



をしっかりと把握してから対策を検討しているのは、問題意識が非常に高いと感じた。そして、行動計画は数値目標をたて、H22年度を基準値として、H26年度を中間目標値、H33年度を最終目標値として数値を上げている。そして、中間評価として各項目を数値で評価。1項目は目標未達となったが、他は全て目標達成しており、中には最終目標をすでに大きく上回っている項目もあったことには驚きを隠せなかった。郡上市は市民一人一人を大切に、個人の考えや意見を聞くことに注力してきた。そして、PDCAサイクルを回して、C(チェック)、A(アクト)も行ない、しっかりと次へつなげることができている。本市も自殺対策は行っているが、市民一人一人と向き合う体制ができていないと感じる。個人の思いをしっかりと聞き、市民のニーズを把握し、生きる支援を行うことが必要。個別のケースに対応し、うつ病や心の健康づくりの普及啓発を進め、関係機関と連携し自殺対策に取り組む必要があるので、引き続き、本市でも自殺対策についてしっかりとサポートできるよう努めてく。

■ 観光客誘致・インバウンド対策等について

10月4日(水) 10:00~

i) 岐阜県高山市

人口 8.9万人、面積 2,177km²

05年2月に丹生川村・清見村・荘川村・宮村・久々野町・朝日村・高根村・国府町・上宝

村を編入合併、東京都とほぼ同じ面積の日本一広い市となった。「心のふるさと飛騨高山」として知られ、16年には、年間451万人の観光客（うち外国人宿泊数は過去最高となる46万人）が訪れた。伝統的築造物群が立ち並ぶ古い街並、奥飛騨温泉郷、2つの国立公園など、豊かな伝統文化と自然資源に恵まれる。



ii) 観光客誘致・インバウンド対策等について

●高山市内の交通

- ・市街地中心部の観光には徒歩またはレンタサイクル

【高山駅から徒歩10分】古い街並、宮川、陣屋前朝市、高山陣屋

【高山駅から徒歩20分】高山祭屋台会館

- ・市街地周辺の観光には周遊バス

まちなみバス（市街地周遊バス） 100円

さるぼぼバス（飛騨の里・飛騨センター周遊バス） 210円

まちなみ・さるぼぼ共通1日フリー乗車券 620円

●高山市の観光の魅力

- ・古い街並や、日本三大美祭のひとつ春・秋の高山祭などの**歴史的文化資源**
- ・滞在型・体験型・周遊型観光地として、四季を通じて一層楽しめる**自然や温泉資源**
- ・誰もが安全に安心して快適に過ごせる**バリアフリーのまちづくり**

●基本理念「住みよいまちは、行きよいまち」

平成8年から、モニターツアーを実施し、障がいを持たれた方や外国人からの生の声を聞き、行政に取り入れてきた。

1) 公共施設のバリアフリー化

バリアフリー観光情報端末、歩車道段差解消、多目的型公衆トイレ

2) 民間施設のバリアフリー化

タクシー サポートシート、ユニバーサルルーム、コントラストルーム

ホテル大浴場、バスセンター スロープ

●外国人観光客が安心して一人歩きできるまちづくり

1) 国際化への取り組み

海外都市との姉妹都市提携、「国際観光都市」宣言、飛騨高山国際協会の設立、国際会議観光都市の指定、海外戦略室の設置

3) 受け入れ体制の整備

ビジット・ジャパン案内所、誘導案内（多言語併記）の整備、外国語パンフレット・DVD、散策マップ作成、外国人観光客受入づくり、招聘・受け入れ事業、無料公衆無線 LAN の整備



4) 海外への PR 活動

JNTO（日本政府観光局）の海外事務所へ外国語パンフレット設置、海外で開催される旅行博覧会に参加、観光ホームページの多言語化

●官民一体となった取り組み

- ・一般社団法人 飛騨・高山観光コンベンション協会
- ・飛騨高山国際協会
- ・飛騨高山観光客誘致推進協議会
- ・飛騨高山国際誘客協議会
- ・高山祭協賛会
- ・高山市観光連絡協議会

●高山市コンベンション開催支援事業

- ・国際大会：その参加者が 50 人以上であるもの（補助限度額 200 万円）
国内参加者 10 人に対し 10,000 円（国外参加者は 1 人に対し 10,000 円）
- ・国内大会：その参加者が 50 人以上であるもの（補助限度額：100 万円）
国内参加者 10 人ごとに 10,000 円

iii) 所感

高山市の観光については市長からのトップダウンが強いが、市長が積極的に観光に携わることで急速に活性化されている。モニターツアーを実施したり、実際に高山市に来てくれた人の生の声を聞き、素直に生かしている。インバウンド対策は多種多様行っており、公民ともに意識が高い。散策マップについては 11 言語に対応している。ヘブライ語は杉原千畝のファンと言った外国の方がヘブライ語だったとのことで、対応したとのこと。外国人観光客受入づくりとして「もてなしの匠 心得帳」を作成して、市内の宿泊・飲食関係事業者等に配布したり、おもてなし研修会を毎年実施してい



る。飛騨高山ウルトラマラソンを実施することにより、全国から参加者が集う（2,786人参加の内、高山市内参加者 99人）。TVアニメ「氷菓」とのコラボレーションにより、若年層への影響も大きい。アニメツーリズムに参加することにより、聖地巡礼をする若者の訪問も増えている。「君の名は。」は飛騨市、「氷菓」は高山市。高山市は古い街並や高山祭があるから観光が成功し、海外からの訪問も多いと思っていた。しかし、実際は市長を始めとし、民間連携で観光を推進し、努力を惜しまないからこそ、今の高山市があることがわかった。様々な仕掛けをし、多種多様な老若男女を受け入れる環境を整えている。本市も徳川家康公、八丁味噌だけでなく、源頼朝、足利尊氏、近藤勇、親鸞聖人など本市に関わりのある歴史上人物は多数存在し、花火、桜、寺院など観光文化財も多数存在している。これから本市も様々な角度から観光を推し進める必要がある。

